

Quarterly

HeadLine

81マスに人生を懸ける女流棋士

Vol.5

2014 秋

◆雇用確保の重要性

◆経常収支と貿易収支はどう違う

◆「ロボット蜂」が飛んで来る

◆海水から真水！水不足は解消？

◆コンパクトシティ（富山市／山元町）

◆21世紀のソクラテス...



【直言】

雇用確保の重要性

リコー経済社会研究所 所長
㈱リコー 取締役 専務執行役員 稲葉 延雄

3

【女流棋士】

81マスに人生を懸ける女流棋士

室谷由紀・女流初段インタビュー
RICOH Quarterly HeadLine 副編集長 花原 啓

4

【経済統計の謎を解く】

経常収支と貿易収支はどう違う？

経済研究室 主席研究員 神津 多可思
聞き手 RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

8

【ヘッドライン】

あなたの部屋に「ロボット蜂」が飛んで来る日

社会構造研究室 主任研究員 栗林 敦子

11

海水から真水！水不足は一気に解消？

どうすれば飲めるようになるのか
環境・資源・エネルギー研究室 主任研究員 柳橋 泰生

12

コンパクトシティが地方を救う

路面電車フル活用の富山市／大津波から復興目指す宮城県山元町
社会構造研究室 主席研究員
RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

14

【潜望鏡】

ネットメディアを起業 21世紀のソクラテスを目指す

社会構造研究室 主席研究員
RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

18

表紙写真 ヨセミテ国立公園（米国カリフォルニア州）
㈱リコー 代表取締役
会長執行役員
近藤 史朗
PENTAX K-30 使用



第5回 雇用確保の重要性

リコー経済社会研究所 所長
(株)リコー 取締役 専務執行役員 稲葉 延雄

今年4～6月期の国内総生産（GDP）が消費税増税前の駆け込みの反動から、前期比年率マイナス7.1%と大きく落ち込んだ。これは事前に予想されていたことではあったが、落ち込み幅が幾分大きかったために、この先の成長加速を疑問視する声が増えている。また、デフレ脱却を通じて経済を活性化するという、アベノミクスに対する期待感もやや後退している。英国のフィナンシャル・タイムズ紙は、政府の成長戦略を含め三本の矢は的を射ていないと批判している。

しかし雇用関係の動向を見ると、有効求人倍率は1倍を超え、求人数が求職者数を上回ってきた。同様に、失業率は振れを伴いつつも4%を下回っている。この失業率の水準は主要先進国の中でもとりわけ低い。その背景に存在するGDPギャップ（総需要－総供給）は、2008年のリーマン・ショック直後は7%もの供給超過であったのに、今では2%内外にまで縮小した。日本経済は着実に完全雇用近づいている。

この結果、人々の間では雇用不安が大きく後退し、この面での先行き安堵感が広がっている。消費者態度指数も、消費税増税直後は一時的に後退したが、ここへ来て上昇傾向にある。

産業界では、業種によっては「人手不足に直面している」「人手を集めにくなっている」と訴える先が増えている。すなわち、合理化・省力化投資を行いながら、いかにして少ない人手でビジネスを継続・拡大していけるか、創造的な経営が問われている。とはいえ、人手が余剰で人員削減を迫られた過去の作業と比べれば、建設的な悩みであり、産業界の取り組みにも活気が感じられる。

成長加速への取り組みは引き続き重要であるが、同時に、人々の豊かで安定的な生活を守るため、経済の無用な変動を回避し、雇用を確保していくことも大変大事なことである。リーマン・ショックを契機とした国際金融危機の勃発の折には、世界の需要が大きく落ち込んだ。日本経済もひどく揺さぶられ、経済は労働力や設備が余ってしまう「供給超過」となり、人々は長く不安定な雇用に悩まされてきた。しかしその後の様々な努力の結果、わが国はようやく、そして世界の先進国に先駆けて雇用不安の払拭に成功しつつある。

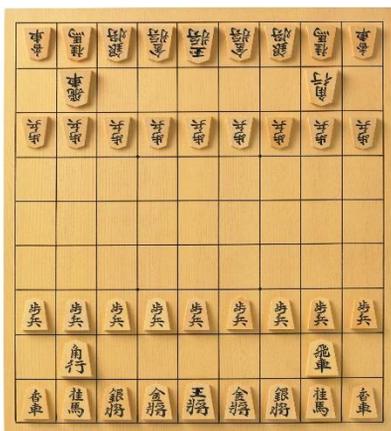
このように大きな経済ショックがあると、それまで維持してきた雇用の確保があったという間に崩れ、その修復に長い時間を要してしまう。それだけに主要国の政策当局としては、バブルその他の大きな経済ショックを再び招き入れることのないよう、政策運営の誤りなきを期してほしいと思う。これは成長戦略に劣らず重要なポイントである。

81マスに人生を懸ける女流棋士 室谷由紀・女流初段インタビュー

RICOH Quarterly HeadLine 副編集長 花原 啓

「いまニコニコ生放送で一番見られているコンテンツはアニメ、政治、将棋」一。ニコニコ動画で知られるドワンゴの川上量生会長はこう断言する。5人のプロ棋士が5種類の将棋ソフトウェアと死闘を繰り広げる、第3回「電王戦」が今年3～4月に開催され、全五局のネット視聴者数は延べ213万人に達した（4勝1敗でソフトが勝利）。今や将棋界のみならず、世間の注目を集める一大イベントである。

将棋では、タテ9×ヨコ9の81マスの盤上で、二人のプレイヤーがお互い8種類20枚ずつの駒を使い、それを取ったり取られたりしながら、最終的に相手の「王様」を追い詰めた方が勝ちとなる。



© iStockphoto.com/RISB

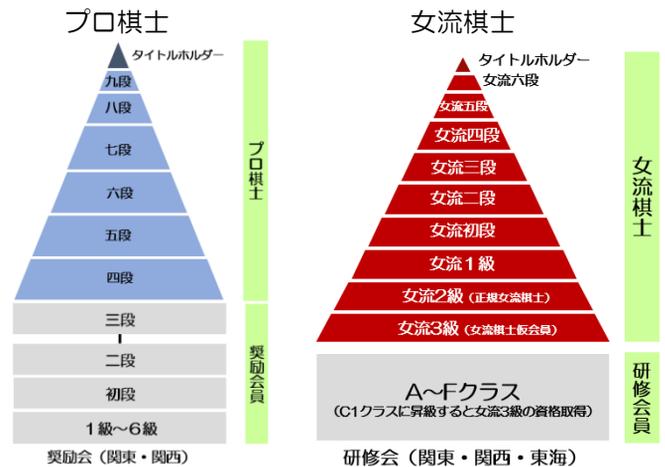
徳川家康が大橋宗桂に俸禄（給与）を与え、「将棋名人」が誕生してから約400年。以後、プロの将棋界は長きにわたり、一般の人、とりわけ女性には縁遠い存在だった。しかし今では、冒頭に紹介した電王戦をはじめ、プロ棋士の対局がネット上で手軽に生観戦できるようになった。この「観る将」の登場が将棋ファンの裾野を飛躍的に拡大し、女性の愛好者も急増している。

さらに近年、女流棋士の活躍も目立ち始め、「男の世界」というイメージは急速に変わりつつある。外見の華やかさが注目され、アイドル並みの人気棋士もいる。しかし、彼女たちは81マスに人生を懸け、熾烈な戦いを繰り広げている。そのひたむきで真摯な姿勢がネット時代の将棋ファンの心を打ち、将棋界全体が新たなステージに突入している。

一般にプロ棋士とは、日本将棋連盟の奨励会を突破した四段以上を指す。女性にも門戸は開かれているが、過去にこの壁を突破した例はない。

しかし、プロを目指す女性には別の道も用意されている。まず、日本将棋連盟の研修会員になり、C1クラスまで昇級すると、女流3級として認められる。その後の対局で一定の成績を収めると、女流2級となり晴れてプロ（＝女流棋士）と呼ばれる。現在、54人の現役女流棋士は6つの女流タイトル戦※を争う。成績優秀な女流棋士には、プロ棋士が鎧を削りあう「竜王戦」といったタイトル戦やその他公式戦への出場権が与えられる。

※リコー杯女流王座戦、マイナビ女子オープン、大山名人杯倉敷藤花戦、女流王位戦、霧島酒造杯女流王将戦、ユニバーサル杯女流名人戦（開始年が新しい順）



（出所）日本将棋連盟ホームページほか、各種資料から作成

IT企業の経営コンサルタントとして活動する傍ら、将棋にも造詣が深く、「シリコンバレーから将棋を観る 一羽生善治と現代」などの著書で知られる梅田望夫氏（ミュージック・アソシエイツ社長、リコー社外取締役）は、女流将棋界の魅力について次のように語る。

「女流将棋界の魅力は『強さ』と『華やかさ』にあると思います。これまで将棋において男女間には歴然とした力の差がありましたが、それは競技人口の数の差ゆえでした。近年、女性の将棋人口の増加に伴い、『強い』若手の女流棋士が増えました。また、将棋の普及活動において女流棋士の『華やかな』存在は欠かせません。こうした『強さ』と『華やかさ』を兼ね備えた女流棋士の活躍が、将棋界をますます盛り上げていくと思います」



女流棋界の「新星」
室谷由紀
女流初段

聞き手 花原啓



室谷 由紀氏（むろや・ゆき） 女流初段
1993年生まれ。大阪府出身。2007年第23回関西アマ女流名人戦優勝。2008年女流育成会に入会。2009年第45回全国高校将棋選手権大会女子個人の部優勝。2010年17歳でプロの女流棋士に。2011年第19期倉敷藤花戦で挑戦者決定戦に進出。2014年活動拠点を関西から東京に移し、第4期リコー杯女流王座戦本戦進出。

——将棋を始めたのは何歳の時ですか。

小学校一年生です。家から徒歩5分ぐらいの所に子供将棋教室があって。そこに、母が習い事感覚で私と二つ上の姉と一緒に入れたのがきっかけです。母の友達の息子さんがそこに入っていたんです。「将棋に強くなるとかじゃなくて、将棋を通して礼儀やマナーを学べるところよ」と勧められ、母は姉と私を入会させたようです。でも、姉と私は「将棋？何それ？」という感じでした。

姉はボードゲームが好きだったんです。よく父とオセロをやっていましたが、私は苦手でした。落ち着きがなく、いつも走り回っては転んで怪我するような子供でした。姉が大人しい性格で、私がやんちゃなタイプ。対照的だったんですよ。だから、将棋教室は私にとって苦痛でした。落ち着きがないから、座ってられないんです。

今となってはありがたいと思いますが、礼儀やマナーに本当に厳しい教室でした。ちょっと将棋盤に肘をつけて指していると「ヒジ！」ってすごく大きな声で怒られるんです。

あくびが見つければ、「そこに布団を敷くから寝るか？」。小学校一年生の女の子にですよ。私が「寝ません」と言い返すと、「じゃあ、帰るか？」という調子です。私は「何でこんなこと言われなきゃいけないんだろう。ただの習い事なのに…」とっていました。

勝負に負けると、悔しくてみんな泣くんですよ。そうしたら「泣くな！泣くほど悔しかったら、もっと勉強なさい」とにかく怖かった。つらくて何度も辞めようと思いました。姉も同じで、「二人で辞めよう」とよく話し合っていました。母は「辞めなきゃ辞めていいよ」。だけど、辞める前に出た大会で、運良く準優勝して賞状と盾をもらったんです。始めてまだ一年も経っていないから、嬉しいじゃないですか。その時に味わった「勝つ喜び」の経験があるからこそ、今の私があると思います。

——将棋は頭の回転が相当速くないと強くなれないと思います。小学校時代の得意科目は何ですか。

体育と算数です。将棋には、暗記する部分と自分で考える部分があると思うんです。私は社会が苦手でした。暗記が苦手なんですよ。将棋は過去の棋譜を頭に入れておかないといけませんが、それがなかなか頭に入ってこない。今はそれに苦勞しています。算数みたいに自分で考える科目が得意です。「こうなって、こうなって、こうなる…」という将棋と数学は、自分で考えるところが似ていて楽しいんです。

——女性が「男の世界」で将棋を続けていると、苦労があると思いますが。

ありました。私が小学校で将棋を始めた頃に比べて、今は女の子が断然増えています。ところが、習い立て当時は教室に私と姉しかいませんでした。姉と一緒になければ、続けられなかったと思います。友達からは、「えっ、将棋？男がやるものでしょ」って言われていました。先輩たちはもっと大変だったと思います。将棋を続けているということだけで、ものすごく尊敬します。

——室谷さんのように将棋が強くなるには、どんな素質が必要だと思いますか。

将棋に向いてる、向いていないは、あまり関係ないと思います。ある程度強くなりたければ、やる気と努力次第で何とかできます。ただ、プロを目指すかどうかの判断をする時は、別の視点からみる必要があるでしょう。将棋教室に入った当初、先生には「室谷姉妹は才能が全くない」と断言されたんですよ。でもその一方で、「コツコツやれば絶対強くなる」とずっと励ましてくれました。

だから、毎日将棋に触れることだけは欠かせませんでした。そうすると、ある程度のところまでは行きました。才能が全くななくても（笑）。「続けること」が一番大事だと思います。私は将棋教室の子供達にも、「将棋を毎日欠かさないでね」と言うんです。一日でも抜けると、感覚が鈍ってしまいます。一日一問、詰め将棋の問題を解くだけでもいいんです。

もちろん、将棋を一年続けてもなかなか結果に結びつかないことがあります。私もそれで辞めようかと思いましたが、でも、そこを乗り越えないといけないんですね。

結果はもちろんですけど、「忍耐力」が大事です。プロになってから、強くなっているかどうか自分では分からない。そこで苦しむんです。強くなっていないのに、続けていて意味があるのか…でもそこで耐えると、いつか道が開かれると信じています。



——対局前はどのような準備をしているのですか。

対戦相手が決まった瞬間から、相手の研究を始めます。過去に指した将棋を盤上に並べて、相手の癖を見つけます。「自分がこう指したら、相手がこう来るだろう」とか。実際そうなるかどうか分かりませんが、予想を立てておくことで安心して対局に臨むことができます。あとは体調管理が大事ですね。

——対局時間はどれくらいですか。

棋戦にもよりますが、長い対局では一人3時間の持ち時間があります。お互い3時間使い切ると6時間。このほか対局の途中で1時間の昼食休憩があります。持ち時間を使い切ると、1分将棋に入ります。それが1時間。最後に感想戦（＝対局後の反省会）が1時間で、計9時間くらいになります。午前10時に始まると、午後7時まで。女流棋士は基本的に1日で終わりますが、プロ棋士は2日制のタイトル戦もあります。

——その間、ずっと正座ですよ。

正座です。ちょっと外に出るのは自由ですが、どんどん時間が減っていくので、なかなかそういうわけにもいきません。プロになった当初は足が痺れましたが、今は慣れました。盤面に集中すると、痛みや痺れを忘れてしまいます。

——対局後はどういう状態ですか。

もう、疲労しかないですよ（笑）。ただ、勝つか負けるかで、その度合いは全然違います。勝てば足が軽いのですが、負けた時は足が重い。家に帰るまでの道のりをすごく長く感じます。

——1回の対局で2～3kg減る人もいるとか。

それはちょっとオーバーだと思いますが、間違いなく1kgは減ります。昼食休憩になっても何も食べないですから。対局していると胸がいっぱいになるんです。お腹が空かないし、食べようとしても食べられない。終わった後もです。緊張で朝食もとらないことが多いですね。女流棋士の半分くらいは、対局中は何も食べないと思います。

——それでは、昼食休憩中はどう過ごすのですか。

ふらっと外の空気を吸いに行くことが多いですね。何も食べないのは体に悪いし、頭が働かなくなってもいけないので、チョコレートをちょっとだけ口に入れます。あとはほとんど盤の前に座っています。

——将棋の魅力はどこにあるのですか。

昔は、「年齢に関係なく、誰でも指せるところがいいな」と思っていました。小学校一年生で将棋を始めて将棋道場に行くと、自分よりずっと年配のおじちゃんと指すわけです。対局中は喋らないのに、心の中で会話ができるんですよ。もしかしたら、将棋を指している人にしか分からない感覚かもしれないですけど…

例えば、「私はこう思っています！」「私は曲げないですよ！」と心の中でつぶやくと、「俺も曲げない！」という無言の答えが返ってくるんです。すごく不思議ですごく面白いと思います。「棋は対話なり」という言葉があるぐらい、将棋を指すと相手の性格まで分かってしまうんです。

子供が年配の方と話す機会は、自分の親や親戚を除くと、ほとんどないですよ。でも、将棋を通して大人と普通に話せるようになり、それが自分にとってプラスになったと思います。全く怖がらないし、自分から積極的にどんどん話しかけることができます。もちろん話題は将棋ですけど。

あと、個人プレーの将棋には団体プレーとは違う面白さがあります。負けたら全部自分の責任ですが、半面、勝った時は自分の力で勝ったと思えるから非常に嬉しいんです。

——将棋を指していて一番嬉しいと思う瞬間は？

もちろん、勝った瞬間です。それしかないですね。今はとりあえず勝ちたい。その後に内容が付いてくれればいいと思っています。内容が良くて結果が付いてくるというのが、本当は正しいのかもしれませんが。でも今は結果が欲しいので、何が何でも勝ちたいです。女流棋士はみんなそうだと思います。

——今後の目標について教えてください。

プロ棋士になった時、「タイトルを取りたい」と大きな目標を立てていました。その気持ちは薄れていませんが、先の目標を立てすぎると目の前のことができなくなってしまいます。だから今は、「強くなれば勝てる」と信じ、強くなることに重点を置いています。「強くなりたい」の一言に尽きます。

——将来の夢について教えてください。

子供向けの将棋教室か、道場を開きたいですね。今はもちろん現役で頑張りたいという気持ちが強いので、もっと先の将来の話ですけど。自分が将棋を通して学んだことが本当に多いんです。それを自分だけじゃなくて、たくさんの人に伝えていきたい。挨拶をきちんとすることや、忍耐力の大切さを子供に教えていきたいし、その子供がまた大きくなって未来に伝えてほしいと思います。

大会で優勝すると、賞品として将棋盤や駒、時計などをもらうんです。それを母親が箱の中に入れておいてくれます。ある日、私が「いっぱいあるんだから、将棋教室に寄付しようよ」と言ったら、母は「あなたが教室を開くっていうからきれいに保管していたのに！」—私より母の方が真剣に着々と将来の準備を進めているんです。



(写真) 中野 哲也
PENTAX K-50使用



経常収支と貿易収支はどう違う？

経済研究室 主席研究員 神津 多可思

聞き手 RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

——新聞を読んでいると時折、「経常収支」という言葉が見出しになっています。また、「貿易収支」が大きなニュースになることもあります。この二つはどう違うのでしょうか。

経常収支、貿易収支を含む国際収支関連統計の構成についてまずお話ししましょう。経常収支は、①貿易収支②サービス収支③第一次所得収支④第二次所得収支の四項目に分かれます。このうち、第一次所得収支、第二次所得収支という名称は、今年1月から使われ始めたもので、昨年まではそれぞれ所得収支、経常移転収支と呼ばれていました。

貿易収支は、モノの輸出と輸入の金額の差です。サービス収支も同様ですが、サービスの輸出入と言うと、違和感を覚える人もあるかもしれません。これは輸送や旅行、金融サービス、知的財産等使用料などについて、国内に居住している人と国外に居住している人との間で、支払われたり受け取ったりする金額の差です。

第一次所得収支には、過去に行われた海外への投資にかかる利子や配当の受け取りと支払いの差額が、第二次所得収支には、海外からの仕送りや海外への仕送りの差額がそれぞれ計上されます。

財務省が9月8日発表した今年7月の経常収支は、4167億円の黒字でした。その内訳をみると、貿易収支が8281億円の赤字、サービス収支が4590億円の赤字、第一次所得収支が1兆8531億円の黒字、第二次所得収支が1493億円の赤字です。

他方、新たに行われる金融取引、例えば直接投資であるとか、証券投資であるとか、そういう資金の流れを計上する項目として金融収支があります。今年からは、政府による為替介入などで変動する外貨準備増減もこの金融収支の内訳項目となりました。これらに加え、不動産の取得などにかかる資金の動きを計上する資本移転等収支があり、以上全て包含して国際収支関連統計と呼びます。

経常収支と資本移転等収支の合計がプラスである場合、それは国内の居住者にとって国外からの資金が受け取り超であることを意味します。その資金は、国内の様々な金融取引を経て結局、何らかの形で海外の金融資産で運用されることとなります。したがって理屈の上からは、経常収支と資本移転等収支の合計額と同じだけ、金融収支はプラスになると考えられます。

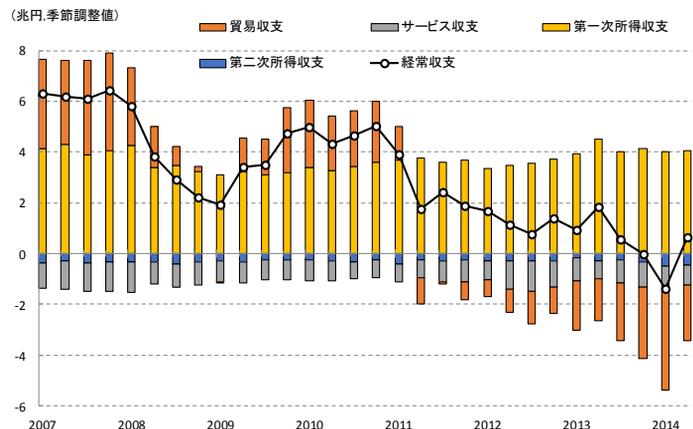
もっとも実際には、統計上の誤差脱漏があってそうはなりません。

なお、昨年までは、例えば経常収支が黒字であると、ほぼ現在の金融収支に相当する資本収支は赤字というように逆の符号を付けていました。それが今年からは経常収支が黒字であれば、金融収支も黒字というように同じ符号とするように変わっています。

——日本は輸出大国であり、以前はその膨大な貿易黒字が米国などから批判され、激しい通商摩擦も起こりました。なぜ最近は貿易赤字が定着しているのですか。

確かに日本の貿易収支はこのところ傾向的に減少し、それを反映して経常黒字も縮小しています。

日本の経常収支



(出所) 財務省

貿易収支の黒字は良いことで、赤字は悪いことのような感じがしますが、理論的には必ずしもそうは言えません。例えば、国内経済が非常に速く成長している時は、供給が需要に追いつかず、その分、輸入が増えて貿易収支も赤字になりがちです。それが行き過ぎるとインフレが進んでしまいますので、行き過ぎは良くありませんが、経済が元気だということ自体は決して悪いことではありません。

また日本では、経済のグローバル化と人口の高齢化が並行して進んでいます。こうした状況では、国内で大量生産するというより、生産拠点を海外に移し、国内ではビジネスの企画や製品のデザイン、研究開発あるいはグローバル化した経営ネットワークの管理などの仕事が増えていくと考えられます。そうすると、輸出は減りますので貿易収支は赤字化していきます。しかし、そのようなビジネス展開が成功していれば、企業としては利益を上げることができるわけですから、それは第一次所得収支の黒字として返ってくることになります。

——そうすると、これからも日本の貿易黒字が復活する可能性は低いのでしょうか。

これからは、日本ではそもそも働くことのできる人口が傾向的に減っていきますから、輸出総額がかつてのように増えるということはなかなか考えにくいでしょう。引退世代はモノやサービスの生産にはあまり従事せず、しかし消費は引き続き行方です。生産には従事せず、消費だけ行う世代が国内で増えていくのですから、どうしても輸入の方が増えることになるので、やはりかつてのような貿易黒字が復活するのは難しいでしょう。



© iStockphoto.com/RISB

——それでは「サービス収支」の今後の展望はどうでしょうか。

サービス収支の内訳には、輸送収支、旅行収支、その他サービス収支があります。輸送収支はヒト・モノを運ぶ際の費用に関する収支ですが、航空や運輸といった産業が国内で急成長でもしない限り、そう大きく収支の構造が変わるとは思えません。一方、旅行収支はこれまでずっと赤字ですが、海外からの旅行者が大きく増えていけば次第に黒字化していく可能性があります。2020年の東京オリンピックに向け、そういう方向に持っていきたいというのが政府の方針でもあります。

——今年1～8月の訪日外国人数（推計値）は、前年同期比26%増の約864万人と過去最高を記録しました。日本に来る旅行者が増えると、サービス収支は改善していくわけですね。

その通りです。最近では為替の円安化や、東アジアをはじめとする新興国の所得水準上昇、来日の際のビザ免除あるいは数次ビザ発給緩和の拡大などもあって、来日観光客は増加しています。そうしたこともあり、旅行収支の赤字幅は縮小しているのです。

サービス収支黒字化の可能性はもう一つあります。その他サービス収支の中には、さらに金融サービス、通信・コンピュータ・情報サービス、知的財産権等使用料といった内訳項目があります。これらは、これからの国内企業の成長のあり方次第では黒字が拡大する可能性があります。高齢化が進み、労働人口が減少していく経済にあって、こうした分野に人的資本が一層集まっていくというのは考えられるシナリオの一つです。

——一方、「第一次所得収支」はなぜ大幅な黒字になっているのでしょうか。

既に申し上げた通り、第一次所得収支には、過去、国内の居住者が行ってきた国外へ投資にかかる利子や配当の受け取りが計上されます。これまでのところ日本の経常収支はずっと黒字でしたから、日本全体としてみれば、毎年その黒字分、海外投資額が積み上がってきています。もちろん海外から資金を調達している分もありますので、差し引きで考える必要があり、それが対外純資産と呼ばれるものです。日本のその対外純資産残高は昨年末で約326兆円あり、それは1991年以来ずっと世界一です。

さらにこれも既に触れましたが、日本企業はグローバル化の中で海外に拠点をもち、そこでの利益を国内に持ち帰るといった経営のパターンを強めています。その利益還元も第一次所得収支として計上されます。

こうしたことを背景に、日本の第一次所得収支は黒字になっており、かつ黒字幅は拡大しています。この傾向は、なおしばらく続くと考えられています。

——貿易収支、サービス収支、第一次所得収支、第二次所得収支を合算して、今年7月の経常収支は4167億円の黒字というわけですね。しかし、6月は3991億円の経常赤字でした。もし経常赤字が定着すると、日本から富が海外に流出し、国力は衰退するのでしょうか。

経常収支の赤字化についても、それは悪いことのように思えますが、理論的にはそういうことは言えません。高齢化社会では、生産はしないが消費をする世代が相対的に増えていきますから、どうしても輸出より輸入が増え、貿易収支は次第に赤字化していきます。高齢世代の消費のための原資には、過去に行った海外投資が取り崩される部分もあるでしょう。それは高齢化に伴う自然な動きですし、過去に成した資産の取り崩しですから、誰に迷惑をかけるものでもありません。

一方、現在、日本の財政赤字を国内総生産（GDP）との対比でみると、日本はこれまでの借金総額でも、毎年新たに借金している額でも、主要国の中では図抜けて大きくなっています。さらに、社会保障関係の歳入と歳出のバランスは大幅な歳入不足となっており、現在の制度を続ける限り、これはますます拡大していきます。

そういう状況で経常収支が赤字になると、日本全体としてみれば海外に資金が流出するわけですから、政府が毎年の財政赤字を賄うために発行している膨大な国債を国内だけでさばき切れず、一部を海外の金融機関に買ってもらう必要が生じます。

そうすると、財政再建の目途が立たず、返す当てがはっきりしない状況では、海外金融機関にはかなり高い金利を払わないと日本国債を買ってくれないでしょう。つまり、長期金利の上昇です。それは政府の利払いの増加を意味し、それでは財政再建はますます難しくなってしまいます。最悪の場合、昨年の欧州の問題国のように、政府の破産ということにもなりかねません。

——なるほど、「良い経常赤字」と「悪い経常赤字」があるのですね。長年にわたり米国は経常収支が赤字です。しかし、依然としてベンチャーの起業が盛んだし、世界経済を牽引しています。基軸通貨とされるドルの信認も揺らいでいません。ということは、米国の場合は「良い経常赤字」と解釈してよいのでしょうか。

米国の経常収支赤字は、もう30年以上続いています。それについては色々な評価がありますが、先進国の中で米国経済が引き続きトップクラスの実力を持ち、新しいイノベーションの発信を行っていることは誰しも認めることです。また財政再建も議会での与野党の対立を乗り越えて進捗していますし、米国ドルの基軸通貨としての地位もすぐに他の通貨がとって変わるとは思われていません。したがって、これまでのところ米国の経常赤字は、米国内で収益性の高い新しいプロジェクトが生み出され、そこに世界の資金が集まった結果とも言うことができます。

——経常収支と為替相場はどのように関係していますか。経常赤字が続くと、円安になる可能性が高いのでしょうか。

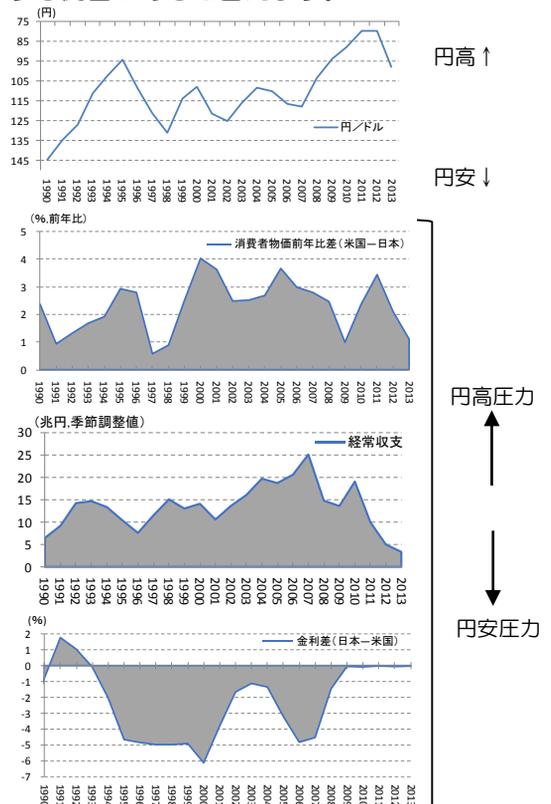
為替相場がどう決まるかについては、幾つかの考え方があり、説明のための決定版モデルというのは今のところないと言えます。実際、これまでの日本円の対米国ドル相場の推移をみると、局面により、あるいは短期的にみるか長期的にみるか等の違いで、色々な要因の影響を受けているようにみえます（右図表）。

まず、長い目では、インフレ率の高い国の通貨ほど切り下がるという傾向があり、これは購買力平価と呼ばれます。日米の場合、一貫して米国のインフレ率の方が高かったため、それが円高トレンドの根底にあったと考えられます。

また、経常収支黒字の国では、外貨を稼いでもそれを自国通貨に変えない限り、国内消費には使えません。このため、外貨を売って自国通貨を買う圧力が強まるはずで、日本はこれまでずっと経常黒字でしたから、円買いの圧力が作用してきたと考えられます。

さらに短期でみると、少しでも高い運用利回りを狙って、高い金利の国へとお金動く傾向もあります。外貨預金の利回りが高いと、円建ての定期預金を取り崩して外貨建ての定期預金にするというような動きです。これは、円を売って外貨を買うということですから、円安の圧力を生むことになります。

このほか、国際情勢が緊張すると米国ドルが買われるとか、国家元首に何かあったという噂が流れるとその国の通貨が売られるといった、ニュース等で為替相場が動くといった側面もあります。現実には、以上のような要因が入り替わり立ち替わり作用するため、何か一つの理由で為替相場を全て説明することはできません。しかし、経常収支の要因だけをとり上げれば、それが黒字から赤字に変わると、その分、通貨の切り上げ圧力が低下する側面があると言えます。



(出所) 財務省、日本銀行、FRB、総務省統計局、米国労働省労働統計局

あなたの部屋に「ロボット蜂」が飛んで来る日

社会構造研究室 主任研究員 栗林 敦子

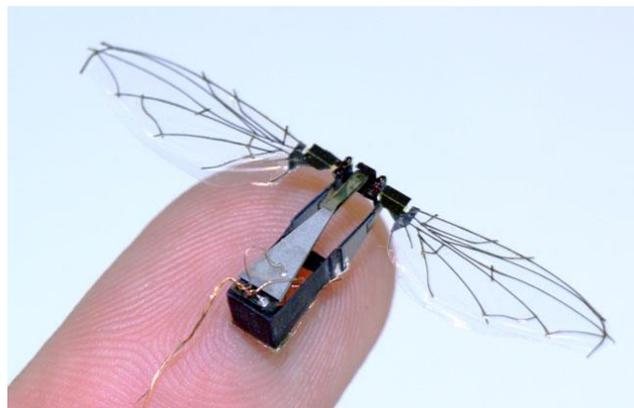
自宅にやって来た旧友の手土産がちょっと洒落ていた。東京のど真ん中で採れたという、蜂蜜を使った洋菓子である。あるNPOがビル屋上でミツバチを飼い、その群れが銀座から皇居、浜離宮、霞が関などを飛び回り、大量の蜜を集めて来る。それを使った老舗洋菓子店のスイーツが人気だという。

大都会でミツバチが活躍を始める一方、養蜂業者が飼育している大量のミツバチが突然姿を消すという、ミステリアスな現象が起きている。「蜂群崩壊症候群」(Colony Collapse Disorder)と呼ばれるもので、2006年にまず米国で問題になった。その後、欧州から同様の事例が報告され、日本でも養蜂場でミツバチの大量死が相次いでいるが、原因については農薬など諸説ある。

国連環境計画 (UNEP) のアヒム・シュタイナー事務局長は「世界の食料の9割を占める100種類の作物種のうち、7割はハチが受粉を媒介している」と指摘する。仮にハチがいなくなれば、農作物への影響が甚大であり、われわれの食生活にも深刻な打撃となるのだ。

「人工的にミツバチを作れないものだろうか」。こう考えた米ハーバード大学の研究者らはミツバチと同じ大きさの超小型飛行ロボットを作り、このロボット同士を互いに協力させながら、人工の群れを形成しようという研究をはじめた。昨年、大きさと重さがミツバチとほぼ同じ「ロボビー (RoboBee)」の開発に成功し、実際に飛んでいる姿の動画を公開している。

(<https://www.youtube.com/watch?v=hEZ7rHRifVc>)



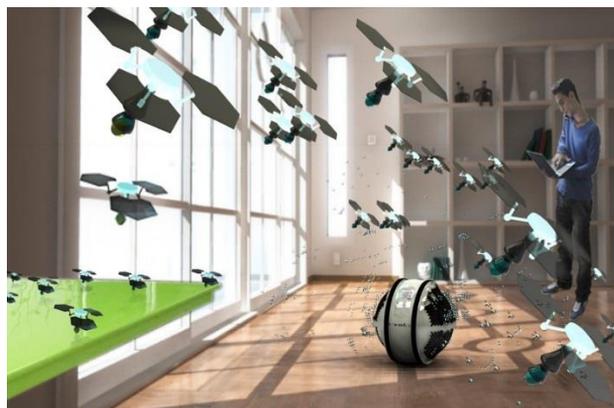
ミツバチ型ロボット「ロボビー」
(提供) 「ロボビー」開発者の一人、ベン・フィニオ氏

ミツバチやアリといった小さな昆虫の一匹一匹は非力だし、頭もあまり良くない。しかし、いったん群れを形成すると、全体で優れた仕事をやってのける。こうした昆虫そっくりの人工知能を備えた超小型ロボットを開発できれば、たとえ一体の処理能力は低くても、群れをすることで「賢さ」を引き出すことが可能になる。昆虫ロボットを安価で大量生産できれば、高性能だが高価なロボットより、生産性が飛躍的に向上する可能性もある。

ロボビーは、植物の受粉というミツバチ本来の機能に加え、様々なシーンで活躍が期待されている。交通監視、気象観測、災害現場での行方不明者の捜索やガス漏れの検知、軍事目的の偵察…。しかし、ロボット蜂が殺人兵器となり、群れを成す光景は想像するだけで恐ろしくなる。

そう考えていると、エレクトロラックス (本社スウェーデン) が公募した「未来の家電製品」の中に、微笑ましい作品が見つかった。2013年の最優秀賞に輝いた自動クリーニングシステム「Mab」である。

受賞したコロンビアのデザイナー、エイドリアン・ペレッツ・サパタ氏はミツバチの群れを見て、「蜂型ロボットに家の中を掃除してもらおう」と思いついた。そして、汚れた部分を検知すると本体から数百もの蜂型ロボットが飛び立ち、洗浄液を撒いて床や壁を磨き上げるというシステムを考案した。羽音を環境音楽として楽しみながら、蜂型ロボットが部屋をピカピカにしてくれる日が待ち遠しい。



「ロボット蜂」の群れが部屋をピカピカに！
(提供) エレクトロラックス

海水から真水！水不足は一気に解消？ どうすれば飲めるようになるのか

環境・資源・エネルギー研究室 主任研究員 柳橋 泰生

世界の人口は70億人を突破し、2050年には95億人に達する（国連人口推計）。人口増加はすなわち、水の使用量の拡大をもたらす。人が生きていくには生活用水が欠かせないほか、農工業用水も確保しなければならない。

人口一人当たりの水資源量が年間1700立方メートルを下回る場合には「水ストレス下にある」と国際的に規定されており、今、43カ国の約7億人もの人々がこのストレスを強いられているという。さらに、地球温暖化も水不足を深刻化させる。今春の気候変動に関する政府間パネル報告書も、地球温暖化に伴う水不足の拡大に警告を発している。

もしも地球上の水の97%を占める海水を自由に利用できれば、水不足は一気に解消できる。ところが、海水には人間にとって厄介な塩分が3.5%も含まれている。それを取り除いて、淡水（真水）を造り出す技術が海水淡水化である。

紀元前から、人間は海水淡水化に挑んできた。古代ギリシャの船乗りが海水を蒸発させて真水を手に入れたり、ローマ人が粘土で海水を濾（こ）して塩を除去したり…。17世紀の英国海軍が海水の淡水化実験に取り組んだという文書が残されている。また、1790年にはトーマス・ジェファソン米国务長官（後の大統領）に対し、海水淡水化の技術が売り込まれていたという記録もある。

現在実用化されている海水淡水化の方法は、「蒸発法」と「膜法」に二分される。前者は海水を加熱した上で、その蒸気を凝縮して淡水を造る。後者では、塩分を通さない特殊な膜を利用する方法が一般的である。

1日25万人分を造水 福岡の海水淡水化センター

日本では離島を中心に小規模な海水淡水化施設が多数設置されてきたが、大規模なものとなると福岡県と沖縄県の2カ所しかない。このうち福岡市東区にある海水淡水化センター「まみずピア」を視察した。福岡県北西部は過去40年間、1978～79年と1994～95年の二度にわたり、かつてない少雨によって大渇水に見舞われた。前者は「福岡大渇水」と呼ばれ、給水制限が実に287日間にも及んだ。4万世帯以上で全く水が出ない状況となり、自衛隊が生活用水の海上輸送に駆り出されている。

福岡都市圏（人口約240万人）は域内に一級河川がないため、福岡地区水道企業団が1983年以降、域外の筑後川から取水し、水の安定供給に努めてきた。しかし、水道用水の3分の1を筑後川に依存するようになっても、水需要の拡大や頻発する渇水に対応しきれない。筑後川にもこれ以上頼れなくなり、福岡都市圏の各自治体は自助努力を迫られ、海水淡水化施設を建設した。1995年に生活用水の供給を始め、その規模は1日5万立方メートル（約25万人分）の真水を造り出すという巨大なプラントだ。

その海水から淡水を造る膜法は、①水を海底から取水する②比較的目の粗い膜に通し、微生物などを取り除く③塩分を通さない極端に目の細かい膜に通し、海水を真水にする一という手順になる。

この「まみずピア」の最大の特徴は、海水の取水方法にある。従来は海底に取水施設を構築していたため、漁業や船舶航行の支障になりかねないという欠点があった。

これに対し、「まみずピア」は玄界灘の海底を掘って取水管を埋設する手法を採り、こうした欠点を解消した。また、海底の砂の層によって汚れが濾過（ろか）されるから、きれいになった海水を取り入れられる。ただし、砂の層が崩れないようにする必要があり、1日6メートルというゆっくりした速度でしか取水できない。このため、取水面積は野球のグラウンド3面分という広大なものになる。



© iStockphoto.com/RISB

「まみずピア」の心臓部が、超高圧の逆浸透膜である。取水した海水をまず前処理用の膜に通し、その次に超高圧をかけて逆浸透膜に通す。高さ800メートルの噴水に匹敵する圧力によって、真水だけが膜を通る。こうして造られた淡水を試しに飲んでみると、通常の水道水に遜色のない味がした。ただし、ミネラル分が少ないため、実際に家庭に供給される際には通常の水道水とブレンドされている。



(上) 福岡の海水淡水化センターの逆浸透膜
(下) 逆浸透膜に圧力かけるポンプ



(撮影) 筆者

ところで、逆浸透膜を通らない塩分は濃縮されるため、塩辛い水が大量にできてしまう。そのまま海に放出すると、環境汚染が懸念される。このため、近くの下水处理場からの放流水と混ぜ合わせ、塩分を薄くしてから放出している。

気になるコストを「まみずピア」の担当者に尋ねると、1立方メートル当たり200円を超えると。通常水道水の100～150円に比べれば割高だが、大湯水になれば市民生活がマヒ状態に陥ることを考えると、止むを得ないのかもしれない。

サウジが世界最大の「真水産出国」

世界全体を見渡すと、海水以外の塩水を含めた淡水化施設はこれまでに1万6000カ所も建設されている。その処理能力は一日6000万立方メートルに達し、「まみずピア」の1200倍に相当する。しかもその建設ピッチが加速している。

世界最大の施設はサウジアラビアで稼動しており、一日に100万立方メートルの真水を造ることができる。施設数が最も多いのもサウジであり、以下、米国、アラブ首長国連邦(UAE)、スペイン、クウェート、中国と続き、日本は7位である。

今後、海水淡水化施設の建設はますます加速していくだろう。新興国の人口増加や地球規模の気候変動を背景に、水不足が一層深刻になると予想されるからだ。ただし、現行の淡水化には大量のエネルギーが必要になるため、省エネ化が普及に向けた最大の課題になる。



© iStockphoto.com/RISB

コンパクトシティが地方を救う（第1回）

路面電車フル活用の富山市／大津波から復興目指す宮城県山元町

社会構造研究室 主席研究員

RICOH Quarterly HeadLine 編集長

中野 哲也

市区町村1800の半数に消滅する可能性がある。日本創生会議（座長・増田寛也元総務相）が今年5月公表した独自推計は、全国の自治体に衝撃を与えた。少子高齢化・人口減少は決して新しい問題ではないが、先送りされてきたのが実情。自治体半減は「不都合な真実」と向き合えという警告だが、人口を増やすには長い時間がかかり、即効薬は見当たらない。では一体どうしたらよいのか。

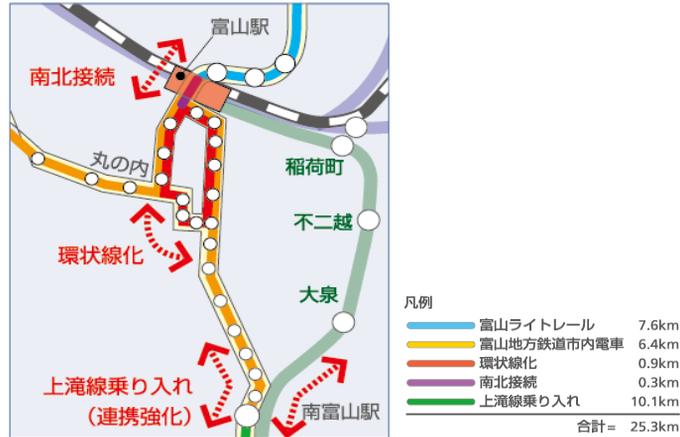
モータリゼーションが地方をクルマ社会に変え、人口は街の中心部から工場が立地する郊外に移動した。「規模の経済」の優位性が疑われず、道路や下水道、福祉といった行政サービスも郊外に拡散した。しかし、グローバル化に伴う製造業の海外移転と、少子高齢化・人口減少が同時進行すると、もはや地方は「規模の経済」を追求できない。

地方活性化の動向に詳しい、慶大大学院システムデザイン・マネジメント研究科の保井俊之特別招聘教授は「米シリコンバレーに代表される、集積効果を追求する『範囲の経済』に変わらない限り、地方自治体の生き残りは厳しい。しかし、インフラ、ハコモノ、住民のネットワークをつなぎ替えるためには、既得権を持つ抵抗勢力と闘う強力な首長の登場が必要になる」と指摘する。今回は、「範囲の経済」として注目を集めるコンパクトシティの実現に向け、難題に挑戦する二人の首長にインタビューを行い、その実情をレポートする。

「串と団子」で生き残り目指す 富山市

全国自治体の中でコンパクトシティ政策にいち早く取り組み、成果を上げているのが富山市（人口約42万人）である。森雅志市長にその本質を尋ねると、「不公平な政策」という答えが返ってきた。「人口減少が不可避になり、右肩上がり時代の市全域（約1242平方キロ）への均質な行政サービス提供は今や、砂漠に水を撒くようなもの。市全体が沈没して生き残れなくなる」という。だから中心部に投資を集中し、居住者をそこに誘導する。市の中心部の地価を維持し、固定資産税や都市計画税などの歳入を確保しようとしている。

富山県議から2002年に市長へ転じた森氏が着目したのは、市内に残っていたローカル線や路面電車、それにバス網である。こうした公共交通を「串」に、駅などを中心とする徒歩圏を「団子」に見立て、串が団子を突き刺してネットワークを形成するコンパクトシティを目指すことにした。



富山市中心部の鉄道ネットワーク（提供）富山市



富山市の森雅志市長

森市長はまず、利用客が減少していたJR富山港線（富山～岩瀬浜）を第三セクターに改め、2006年に日本初の本格的なLRT（次世代型路面電車）「ポートラム」として蘇生した。LRTは床が低いため、お年寄りでも楽に乗り降りできる。運転間隔を30～60分から10～15分に短縮し、運賃も200円均一制に。駅の数も増やし、

乗客目線でサービス向上を図った結果、開業前と比べて利用客数は平日で2.1倍、休日は3.4倍に急増した。市の調査によると、LRT開業までは出歩くことの少なかった高齢者ら、新規乗降客が全体の2割を占めている。



（上）ホーム高さの違いに注目！左が現行LRT、右はJR時代（東岩瀬駅）
（右）富山市内を快走するポートラム



次に、森市長は市内電車を約900メートル延伸し、2009年に環状線「セントラム」に作り替えた。ポートルム同様、低床のLRTで運賃も200円均一制である。延伸によって市電と富山城址がコラボする美しい景観が生まれたほか、市民のライフスタイルに変化が生まれた。例えば、中心部での休日の平均滞在時間は自動車利用者113分に対し、環状線利用者は128分と15分も長い。消費金額も自動車は9207円にとどまるが、環状線では1万2102円に達する。クルマを自宅に置いて、市内で酒を楽しむ人が着実に増えているという。



(上) 富山城址とセントラム
(右) レトロな旧型電車も健在



森市長「市民にお金をもっと使ってもらおう」

農閑期の副業として始まった「富山の薬売り」に代表されるように、富山市民は働き者で質実剛健といわれる。総務省の家計調査（2012年）によると、勤労者世帯の実収入は都道府県庁所在市の中で3位。借金が少ないため、可処分所得と貯蓄率は1位である。半面、消費支出は21位、消費性向は47位にダウンする。森市長は「住宅と耐久消費財を買ったら、後はひたすら貯め込むという市民性。富山市が生き残るため、市民にお金を使ってもらおうことが私の仕事だ」と言い切る。

そこで、森市長は人口減少時代の消費のカギを握るお年寄りに外出を促そうと、「おでかけ定期券」というサービスを始めた。65歳以上の市民がこの定期券（年間1000円）を買えば、市内各地から中心部までの公共交通運賃が一律100円（午前9時～午後5時）。高齢者の4人に1人がこの定期を持ち、一日平均2500人超が利用する。



セントラムでお年寄りが気軽に外出

また、指定花屋で花束を買って市内電車に乗ると、運賃が無料になるサービスもある。その意味を聞くと、森市長は「私も何だかよく分からないけど、何となくオシャレだし、街に行きたくなるじゃない」と笑みを浮かべた。「人を動かす三大要素は、楽しい、美味しい（お買い得感も含む）、オシャレ」というのが市長の持論。「その三つのどれかあれば、人は用がなくても街中に出掛けて行く」

北陸新幹線が来春開業すると…東京から2時間で

公共交通網を整えても、市民が郊外から中心部に住み替えてくられなければ、コンパクトシティは実現しない。このため、富山市は中心部に移る市民などを対象に各種の助成制度を導入している。例えば、住宅購入者に50万円、賃貸生活者には家賃補助月1万円（3年間）を支給する。建設業者の共同住宅建設に対しては、一戸当たり100万円助成する。その結果、転出が続いていた中心部の人口が2008年から転入超過に様変わりした。また、中心部の歩行者数の増加に伴い、シャッターが目立つ商店街の空き店舗率もわずかながら改善している。



中心部商店街で空室率が低下

しかし、コンパクトシティの完成度としては、森市長は「まだ60%ぐらい」という。インフラ整備では、JR富山駅で分断されているポートルムとセントラムを接続するという、難題を仕上げなくてはならない。ソフト

面でも、「コンパクトシティ化で高齢者の外出が増え、健康寿命が延びることを証明したい」と意気込む。実際、市が「おでかけ定期券」の利用者を調査したところ、一人当たりの歩数が一日1309歩増加。その医療費削減効果は一人一日約80円、定期券利用者全体では年7560万円に上るといふ。

今、来春の北陸新幹線開業に向けて、JR富山駅では改築工事が急ピッチで進んでいる。東京とは2時間強で結ばれるから、今より1時間以上も短くなる。日銀富山事務所の伊藤栄所長は「優秀な人材を確保するという意味で、新幹線は富山市の新たな武器になり得る」と予想する。新幹線が森市長の創造力を刺激し、富山市のコンパクトシティ政策は更なる進化を遂げるかもしれない。



北陸新幹線工事中のJR富山駅

震災後、人口が2割減少 宮城県山元町

コンパクトシティ政策は、「東日本大震災で被災した過疎地域でこそ有効に機能するのではないか」（前出の保井俊之・慶大特別招聘教授）とも期待される。ゼロからの街づくりを余儀なくされた被災自治体が、住宅や交通インフラ、公共施設を安全性の高いエリアに集約し、少子高齢化・人口減少を乗り越えようという考え方である。

東日本大震災で大打撃を受けた宮城県巨理郡山元町。斎藤俊夫町長はコンパクトシティを軸にして、町を復興しようと奮闘している。太平洋に臨む同町は「東北の湘南」といわれるほど、夏冬も過ごしやすい気候。冬もクローズしないゴルフ場には北海道などからゴルファーが集まり、イチゴやリンゴ、ホッキ貝といった幸にも恵まれる。近年は電車で40分の仙台市のベッドタウンとなり、最盛期の人口は1万8000人を超えていた。



(作成) 花原 啓



山元町の斎藤俊夫町長



巨大津波に襲われたJR常磐線

しかし、それでも少子高齢化・人口減少には抗し切れない。山元町の人口がジリジリと減り始めたところに、12メートルもの巨大津波が襲ってきた。人口の4%に当たる635人の尊い命が失われ、可住地域の6割が浸水した。唯一の鉄道であるJR常磐線が被災し、同町内の区間は未だ不通。仙台市への通勤・通学客が次々に町から出て行ってしまい、人口は震災前の1万6695人から2割以上も減り、今年7月末に1万3000人を割り込んだ。

斎藤町長は宮城県庁時代、政令市を目指す仙台市の広域合併に尽力した。2010年4月、山元町長に初当選すると、「高齢化率3分の1超の山元町は生き残れない」と危機感を抱き、秘かに隣接する



巨理町との合併構想を練り上げた。なぜなら、一般会計が50億円規模の山元町単独では、「投資的経費が6億～7億円程度しかなく、その大半が道路や排水路などの維持・修繕費に消えてしまう」からだ。

町立中浜小学校では「ブルー線」まで津波が押し寄せたが、児童全員が三角形の屋根裏部屋に無事避難

隣町との合併も…「コンパクトな街にするしか…」

ところが、翌2011年3月11日の巨大津波はこの合併構想も押し流してしまい、斎藤町長は茫然とするほかなかった。建て替え中の実家が水没し、町長も被災者となる。震災直後は車上生活。その後は町役場に泊まり込み、寝食を忘れて復興の陣頭指揮を執り続ける中、「町を再生させるには、コンパクトシティを導入するしかない」と確信するようになった。

JR東日本が常磐線不通区間を内陸側に移設した上で復旧させる方針を固めると、斎藤町長はそれに合わせて3つの市街地を新たに整備するコンパクトシティ計画を打ちだした。被災住民をこのエリアに誘導し、学校や保育所、公園、防災センター、ショッピングセンターなどを建設。開発総面積は東京ドーム約12個分の56ヘクタールに上り、2015年度に真新しい住宅757戸が誕生する。



飯庁舎のままの山元町役場

この計画を策定する前、山元町は住民に対して意向聴き取り調査を行い、約7割の支持を得た。しかしながら、新市街地や常磐線新区間から離れてしまう住民の不満は根強く、

斎藤町長は今年4月の町長選で再選されたものの、「反コンパクトシティ」を掲げた元町長とはわずか194票差だった。だが選挙後もひるむことなく、斎藤町長は「未曾有の巨大津波を経験した山元町にとって、コンパクトシティは必然的な対応。その成功こそが、全国からの大変有難いご支援に対する恩返しになる」と語り、粘り強く町民の説得を続けている。

ただし、一つ深刻な問題が発生している。小さな町がこれだけの大事業を進めているのに、町役場のマンパワーが圧倒的に足りないのだ。震災前に比べると予算は10倍の560億円（2013年度当初）まで膨らんだが、職員数は1.6倍しか増えていない。しかも総勢296人のうち115人が他自治体からの派遣職員であり、その3分の2が一年で交代する。「町役場には毎日、ありとあらゆる案件が持ち込まれている。コンパクトシティを成功させるためにも、長期の職員派遣をお願いしたい」一。斎藤町長は悲痛な叫び声を上げている。

山元町に残る唯一の本格的な宿泊施設が、江戸時代末期の創業という磐城屋である。7代目主人の斎藤次郎さん（80）は「昭和30年代までは富山の菓売りが上客だったし、その後は学校の先生がたくさん下宿してくれた。バブル期は北海道からのゴルフ客で繁盛したんだよ」と懐かしそうに話す。

斎藤さんは大津波で愛車を失い、旅館も浸水して営業不能になり、「俺の代でけじめを付けろということか…」と気持ちは廃業に傾いた。しかし、大震災後初めての盆が近づいてくると、近所から「家族や親戚が帰郷してくるのに、泊まる所がないんだよ」という声が聞こえてきた。斎藤さんはコツコツ貯めていた300万円を投じて旅館を修繕し、急ぎよ営業を再開した。

ところがその後、山元町が「コンパクトシティ計画の一環で道路を通したいから、旅館の建っている土地を譲ってほしい」と打診してきた。再び斎藤さんは悩み始める。「先祖代々の土地を手放してよいのか」と自問を続けているうちに、「自分が生まれ育った山元町がコンパクトシティで生き残ることができるなら…」一。斎藤さんは150年の歴史を刻み込んできた旅館と土地を手放す決断をした。



(上) 新市街地の開発現場
(下) 復興工事が続く磯浜漁港



(左) 磐城屋7代目主人の斎藤次郎さん
(下) 歴史を刻み込む磐城屋の中庭



(写真) 筆者
PENTAX K-50使用



ネットメディアを起業 21世紀のソクラテスを目指す

インターネットのない生活はもはや考えられない。情報は国境を越えて瞬時に地球を一周する。ツイッターやフェイスブックを使えば、だれもが発信者になり得る。一方、新聞やテレビ、ラジオ、雑誌といった既存メディアは根底から変革を迫られる。こうした中、日本経済新聞記者として数々のスクープ記事を放ってきた土屋直也氏（53）が独立し、ネットメディア「ソクラ」(<http://www.socra.net/>)を起業した。



土屋 直也氏（つちや・なおや）
ソクラ代表兼編集長

1984年早稲田大学政治経済学部卒、日本経済新聞社入社。経済部、ロンドン支局、証券部、1991年「損失補填リスト」スクープで日本新聞協会賞受賞。ニューヨーク総局、経済部次長、横浜支局長、編集委員などを経て2014年7月退職。ソクラを起業。

（撮影）花原 啓

——日経新聞経済部のスター記者が退職し、ソクラを起業した理由は。

今、ネット上では一種の多チャンネル化が加速している。読者にアクセスしてもらえると意味では、大きなメディアも小さなメディアも発信力に差がない。そこに無限の「可能性」を感じた。巨大なマスメディアの中にいると、細分化された分担制からはみ出すことが難しい。縦割りの弊害も否定できない。もし、価値観を共有する同志とメディアを持つことができれば、少人数の編集者やライターが議論を重ねながら、自分たちの思いを丁寧に伝えられると考えた。小粒でもピリリと辛い「山椒」のような存在を目指し、社会にインパクトを与えていきたい。

——ネットメディアの起業を思いついたきっかけは。

15年前、ニューヨークに赴任すると、マイクロソフトのウィンドウズ95が席卷していた。その時、「いずれ紙の新聞はなくなるんだな」と直感した。思ったよりも時間はかかっているが、最近になって米国では優秀な編集者や記者が大手メディアから続々とスピアウトし、小回りの利くメディアを創り始めている。日本もその後を追いかけるようになるだろう。

——紙の新聞をパソコンの画面上に移すだけでは、ネットメディアは成立しないのか。

人々が必要としている情報を提供するという意味では、コアになるものは変わらない。しかし、時代の最先端に適応する、ネットらしい表現の仕方があるのは間違いない。まだ模索中だと思う。例えば米英では、データジャーナリズムと呼ばれるものが生まれている。ITの進進がもたらした計算や整理の高度な能力を活用し、ビッグデータを基に未来を予測しようというものだ。ソクラもこうした実験に早く取り組み、ジャーナリズムの可能性を広げていきたい。

起きたことを一時情報として伝える能力は、もはや競い合う対象ではなくなりつつある。日本の新聞には「朝刊～夕刊～朝刊」というサイクルがあり、特ダネを書けばライバル社は最低でも半日遅れる。ところがネット時代になると、あっという間に追いついてしまう。特ダネを取ってくる記者の努力は尊敬に値するが、単純な一時情報であればすぐに廃れる。独自の視点を備え、他者が追いつけない深みのある記事が一層求められている。

——そもそも記者を志した動機は。

大学の弁論部に入り、言葉の持つ力の大きさを感じるのと同時に、自分が多少なりとも言葉に敏感な人間だということに気づいた。「言葉を使って訴えるという仕事が向いているのではないか」「フェアネス（公正）に対して感受性が強い方かな」と思い、記者を志した。日経新聞社入社後10年経ったら、「天職だな」と感じるようになった。90歳になっても、月に一本は何か書いていたい。生涯一記者という気持ちだ。

——一言でいうと、ソクラはどんなメディアか。

「ニュースの目利き」を目指す。各メディアからニュースを集めて紹介する、ソクラのようなキュレーション（収集）サイトは花盛り。読者の旺盛なニーズがあるし、これから関連のマーケットもできてくる。だが、先行しているキュレーションサイトは基本的にニュースを機械で選ぶことからスタートした。それだけでは不十分だということが分かり、後からジャーナリストをスカウトしている。一方、ソクラは大手メディアの強さも弱さも知り抜くジャーナリスト集団。機械によるニュースの取捨選択とは一味違うものになり、それが存在価値だと思う。

一例を挙げると、STAP細胞論文に対する問題点の指摘は、圧倒的にネットが早かった。国内外の専門家がブログなどでとり上げ、それを週刊誌が追いかけて、最後に大手メディアも触れるようになった。

ネット上では常に新鮮な情報が生まれており、キュレーションサイトはそれをいち早くつかんで紹介できる。もちろん真贋をよく見極めなくてはならないが、「もしかしたら間違っているかもしれないけれど…」 「正しい確率はこれぐらいだが…」 という情報でも、場合によっては注釈を付けて紹介していくことに価値がある。

また、他のキュレーションサイトにはない「独自記事」を加えている。ジャーナリストの視点で解説する記事だ。さらには経営が軌道に乗った段階で、調査報道を仕掛けていきたい。

——ソクラという社名に決めた理由は。

モノを深く考えるということが社会全体で足りなくなり、哲学する気持ちが失われているからだ。色々な角度から考えたり、議論したりすることは本来、エンターテインメントなのに…。ちょっとおこがましいが、社名には「もっと哲学しようよ」という思いを込めた。ソクラテスは政治家になったわけではないが、社会に対して政治的にアプローチした。多くの弟子を育て上げ、後世に名を遺している。起業の原点を忘れないように、偉大な哲人の名前を拝借した。ソクラテスではなくソクラにしたのは、「哲人にはなりきれないが…」ということ(笑)

サイトには、「もっと知りたい」というボタンを用意し、読者がモノを深く考えるきっかけになればと思っている。ボタンによって編集部も読者の考えをリアルタイムで把握し、取材・編集を深化させていきたい。

——ビジネスとしてどのように確立していくのか。

広告には依存しない。米欧でもほとんど例はないが、独自提供した記事について読者の皆様から1本10円をいただきながら、すなわち「記事のバラ売り」でサイトを運営していく。ほかに月500円程度の読み放題のプランを設けるが、できればこの定額会員という「ファン」になってサイトを育てていただきたいと願っている。

広告に頼らないということは、記事の質を維持していく上で極めて重要な要素になる。広告主が気になってしまうと、どうしても記事の内容が変わってくるからだ。読者と編集部の対話の中だけで、記事を構成していく。課金をしていくのは非常に難しいチャレンジだと自覚しているが、持続可能なメディアになるためには、むしろ必要不可欠な要素だと思う。

RICOH Quarterly HeadLine Vol.5 2014 秋

発行日 2014年10月1日
発行人 稲葉 延雄
編集長 中野 哲也
副編集長 花原 啓
発行所 リコー経済社会研究所
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5
丸の内北口ビルディング20F
ホームページアドレス
<http://www.ricoh.com/ja/RISB/>

本誌記事・写真の無断転載を禁じます。

RICOH Quarterly HeadLineへのご意見やご提案は、
risb@nts.ricoh.co.jp へお願いいたします。

RICOH
imagine. change.

身近になったこの一台に、 PODビジネスの未来がある。

企業の営業部門や印刷の現場など、さまざまなビジネスシーンで高まるプリントビジネスへの要求にきめ細やかにお応えする RICOH Pro C5110S/C5100S。高度な色再現性や凹凸紙への対応などプロダクションニーズを満たす高性能を発揮しながら、オフィス機能もご用意しています。カラープロダクションプリンターを身近にするコンパクトなこの1台が、プリント・オンデマンドの新たな可能性を拓きます。



RICOH Pro C5110S/C5100S

www.ricoh.co.jp/pp/pod/

※写真はRICOH Pro C5110Sにオプションを装着したものです。



この広告は、リコーが提供する新しいクラウドサービスである Clickable Paper™ サービス*に対応しています。
* iPhone/iPad/Android アプリケーション「TAMAGO Clicker」(無料)をダウンロードし、広告を撮影(クリック)すると、商品のスペシャルサイトなどインターネット上の関連情報をご覧いただけます。 ※iPhone、iPad はApple Inc. の商標です。Android はGoogle Inc. の商標または登録商標です。

株式会社 リコー
〒104-8222 東京都中央区銀座8-13-1

●発行日 2014年10月1日 ●発行人 稲葉延雄 ●編集長 中野哲也
●発行所 リコー経済社会研究所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビルディング20F